

第29回 中国地区測量技術講演会 プログラム

～ 測量分野における宇宙技術の最前線 ～

日時:令和8年6月22日(月) 13:00～16:40

会場:広島県民文化センター (広島市中区大手町1丁目5-3)

○ 開会挨拶 13:00～13:05(5分)

「測量の日」中国地区連絡協議会委員長 白井 宏樹
(国土交通省 国土地理院 中国地方測量部長)

○ 特別講演 13:05～13:50(45分)

演題：宇宙技術を活用した社会課題への取り組み

講師：広島工業大学 名誉教授 菅 雄三

デジタルツイン技術は、現実世界の地形や地物等をセンサや IoT デバイスを駆使して、宇宙・空中・地上・海上における多段階的・時空間的なデジタル主題図作成を可能にしています。測位衛星・地球観測衛星等による空間情報技術を活用した中国地方における社会課題解決支援(除雪、海上交通、防災・減災対策や農政業務等)のための社会実装プラットフォーム開発の現状と動向について解説します。

《休憩》 13:50～14:00(10分)

○ 講演1 14:00～14:45(45分)

演題：準天頂衛星システム「みちびき」の発展と最近の利活用事例について

講師：内閣府 宇宙開発戦略推進事務局

準天頂衛星システム戦略室 企画官 佐藤 雄大

我が国の測位衛星「みちびき」は、2018年に4機体制での運用を開始し、無償で利用できる高精度測位や災危通報等のサービスを提供しています。2018年以降も新たなサービスの追加・改良や衛星数の増加等により、着実にユーザーの利用環境は向上しています。近年はみちびきに対応する受信機の価格低下や小型化が進み、多様な分野での製品やサービスへの導入等、企業による利活用の取組が広がっています。本講では今後のみちびきの発展の方向性と最近の利活用事例について紹介します。

《休憩》 14:45～14:55(10分)

○ 講演2 14:55~15:40(45分)

演題：国土地理院と宇宙航空研究開発機構(JAXA)との連携について

講師：宇宙航空研究開発機構・理事 筑波宇宙センター所長 瀧口 太

国土地理院とJAXAは、人工衛星を利用した測位や測地において、長年、緊密な協力関係を築いてきました。その取り組みについては、昨年の第54回国土地理院報告会でも御報告させていただきましたが、今年2月に地殻変動観測による国土管理への貢献について感謝状をいただきましたことも踏まえ、改めて、連携活動についての報告をいたします。

《休 憩》 15:40~15:50(10分)

○ 講演3 15:50~16:35(45分)

演題：正確な位置情報によるスマート農機テクノロジーとコミュニティーマネジメント

講師：ヤンマーアグリ(株)先行開発部附技監・部長/

京都大学農学研究科産学共同講座特定教授 日高茂實

農業者の急激な減少、高齢化を受け、スマート(ロボット)農機の開発が進められている。また、農家・農業法人の規模拡大が進むことに加え、実需者自体が農作業委託、そして農業経営を行うケースが増えている。そのため食料生産バリューチェーンのマネジメントが重要となってきている。本講演においては、正確な位置情報を起点としたスマート農機のテクノロジー紹介と、同じく位置情報を起点とした農作業の見える化、そこからのマネジメント、そして双方の融合について言及いたします。

○ 閉会挨拶 16:35~16:40(5分)

全測連中国地区協議会 会長 森脇 克彦